



新年のご挨拶

看護部長 古屋敷 智恵美



明けましておめでとうございます。
2013年(平成25年) 今年巳年です。蛇は脱皮を繰り返すことから「復活と再生」転機の年と言われています。今年が変化発展の年であり、次の段階への一歩を踏み出す発展の年にしていきたいと思います。また、特徴としては、探求心と情熱だそうです。あやかりたいものです。

今年が重要な年であることは皆さまが認識されている通りです。去年は、安全な看護の提供、経営改善に取り組み、みんなが頑張ったことが成果に表れています。ご協力有り難うございました。

25年度の中堅研修は愛媛労災病院が当番病院になっており、当院で研修を企画しています。10施設の中堅看護師が参加しますので、是非、当院からも多数参加してください。26年度には、フルオーダリングシステムの更新を予定しています。看護の安全性・効率性の為にも、是非より良いシステムを導入していきたいと考えています。今年から検討が始まりますので、しっかり意見を出し合っていきましょう。地域の人に信頼され、地域に貢献できる病院にしていくためには、看護の質向上は必須です。組織で成長し続ける病院としてみんなで頑張っていきたいと思います。



～院外研修から～

「生活をつなぐ退院支援(基礎編)」

に参加して

北7病棟 宮前由美子

入院患者の約5割が高齢者であり、退院先を決定するために退院調節は必要不可欠です。

高齢患者の中には、入院後のADL低下や、老老介護による介護力不足が原因で、自宅への退院が困難となる患者がいます。入院早期より「退院後はどのように生活するか」を患者・家族と一緒に考え、患者の「家に帰りたい」という思いを尊重し実現するために、他職種と連携し退院調節をしていきたいと思います。

「退院調節は、患者の意思決定を可能にするための制度・地域医療・福祉サービスの調整」と言われていました。現在、退院支援スクリーニング票を用いて、患者が退院後の生活に不安を抱かないようにMSWと連携を持ちながら、退院後の生活を見据えた退院調節を行っています。この患者に何が 필요한のかをアセスメントして、患者・家族の思いを可能な限り尊重して、共に考え「退院できてよかった」との声が聞かれるように支援しましょう。

「家族支援に必要な知識と実際」に参加して

南4病棟 渡部奈美

最近の家族傾向としては、三世帯世帯や核家族世帯が減少し単独世帯が急増しています。家族によって距離感が異なるため、患者や家族にキーパーソンなどの事前の確認が重要となります。また家族から医療者に対しての要求が厳しい傾向にあり、患者や家族は病院が安全だと思い込んでいます。私達医療者は適切な言葉使いで途中経過を知らせ、家族に安心感を与えるために、スタッフにより意見が異ならないよう統一する必要があります。今後は、患者や家族の心に寄り添えるよう、患者や家族のペースに合わせ、「答える」ではなく「聴く」姿勢で関わっていくことが大切です。

受容的・共感的に関わり、表情や声の調子なども観察し、ねぎらいながら共に考え、よりよい関わりができるよう話し合いの場を持っていくようにしましょう。



最新の医療ニュース 共同通信より

東京農工大と化学大手トクヤマの研究チームは、1月10日ウイルスの不活化に使える紫外線の発光ダイオード(LED)を作製することに成功したと発表した。紫外線の出力効率の世界トップレベルといい、2015年度までの実用化を目指す。医療現場でのノロウイルスの不活化に使用できる可能性があるのではと期待されています。

